

大野市剣ヶ岩におけるオオチャイロハナムグリ *Osmoderma opicum* Lewis の採集記録

梅村信哉*¹

要旨：2021年7月30日に大野市剣ヶ岩（三ノ峰登山道）においてオオチャイロハナムグリ 1♀を採集した。

キーワード：オオチャイロハナムグリ、剣ヶ岩、三ノ峰、福井県

Shinya UMEMURA*¹. 2022. A record of *Osmoderma opicum* Lewis at Kengaiwa, Ono City, Fukui Prefecture. *Ciconia* (Bulletin of Fukui Nature Conservation Center) 25:53-55.

A female of *Osmoderma opicum* Lewis was collected at Kengaiwa, Ono City, Fukui Prefecture on 30th July, 2021.

Key words: *Osmoderma opicum* Lewis, Kengaiwa, Mt. Sannomine, Fukui Prefecture

オオチャイロハナムグリ *Osmoderma opicum* Lewis は体長 26.3~36.1mm の大型のハナムグリである。国内では本州、四国、九州、屋久島に分布し、日本本土では北海道、千葉県、大阪府、山口県を除く全都府県から記録がある。本種は森林内の巨木、老木の樹洞などを主な生息圏とし、幼虫は広葉樹、針葉樹をあわせて 20 種以上の樹木の樹洞にたまったフレークを食べ、飼育下では 2 年 1 化である。成虫は 7~9 月上旬に出現し、稀にミズナラ *Quercus crispula* の樹液やイワガラミ *Schizophragma hydrangeoides* の花に集まるところが観察されるが、通常は花や樹液には集まらないとされる（酒井・藤岡 2007；酒井 2012）。

本種は比較的稀で注目度の高い種であることから、各地のレッドデータブックに掲載されることが多い（酒井 2012）。森林の伐採、植林や道路、ダム等の整備によって生息地周辺の自然林の乾燥化が進み、生息環境の悪化が懸念されることから（川井 2015）、環境省のレッドリスト 2020（環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室編 2020）において本種は準絶滅危惧に選定されている。福井県周辺でも、本種は石川県、富山県で準絶滅危惧に、京都府で要注目種に選定されている（富山県生活環境文化部自然保護課編 2012；荒谷 2015；井村 2020）。

福井県においても、これまでに池田町冠山、大野市下打波、大野市仏原ダム、南越前町夜叉ヶ池で本種の成虫が採集されており（佐々治・斉藤 1985；佐々治ほか 1998）、大野市池ヶ原においては幼虫が採集された記録がある（斎藤 1999）のみである。さらに、本種が好むような大木の残る環境は減少していると

考えられることを理由に、本種は「改訂版福井県の絶滅のおそれのある野生動植物」において準絶滅危惧に選定されており（福井県安全環境部自然環境課編 2016）、県内における本種の生息状況の把握が望まれる。

筆者は、大野市剣ヶ岩において本種を採集したので、下記の通り報告する。

オオチャイロハナムグリ *Osmoderma opicum* Lewis
福井県大野市剣ヶ岩、1♀、30-VII-2021、梅村信哉採集・福井市自然史博物館保管 (FCMNH-JI31362 図 1)

本種を採集したのは、三ノ峰の登山道の標高約 1,671m の地点（大野市剣ヶ岩）である。14 時 20 分頃、三ノ峰からの下山途中で剣ヶ岩において休憩していた際に、羽音がしたため、周囲を探したところ、チシマザサ *Sasa kurilensis* にとまっている本種を見つけた（図 2）。本種の県内における成虫の採集記録は、下野谷（1989）に報告されている 1986 年の大野市仏原ダムにおける記録以来約 35 年ぶりであると思われる。

福井県内では本種の記録は保存状態のよいブナ帯の周辺に限られている（斎藤 1999）。しかし、奈良県においては近年春日山の常緑広葉樹林内においても本種の採集記録が報告されている（瀬口・澤島 2016）。瀬口・澤島（2016）は、本種がブナ帯以上の山地に多く観察されるのは、本種が冷涼な気候を好むからではなく、本種が依存する樹洞が形成されやすい大径木や古木の残っている原生的な自然環境が

* 連絡・別刷請求先 (Corresponding author) E-mail: sumemura@ma.city.fukui.lg.jp

¹ 福井市自然史博物館 〒918-8006 福井県福井市足羽上町 147

Fukui City Museum of Natural History, Asuwakami-cho 147, Fukui, Fukui 918-8006, Japan.



図1 オオチャイロハナムグリ (福井県大野市剣ヶ岩 30-VII-2021, 梅村信哉採集・福井市自然史博物館保管 (FCMNH-JI31362))



図2 林道を歩くオオチャイロハナムグリ (福井県大野市剣ヶ岩 30-VII-2021, 梅村信哉撮影)

残りやすいことが理由であり、長期にわたる攪乱を受けていない豊かな自然林であれば、低標高地の照葉樹林であっても本種が生息することができることを指摘している。福井県内においても雄島や嶺南地方の日本海沿岸の島や社叢林に原生的な常緑広葉樹林がかるうじて残されている場所がある。今後、ブナ帯に加えてこのような場所でも調査を行うことで、本種の新たな生息地が見つかる可能性があり、調査の継続が必要である。

なお、三ノ峰登山道は白山国立公園特別保護地区に含まれているため、調査の実施に際し、環境省中部地方環境事務所国立公園課長より動物の捕獲・殺傷許可を得ている（環中地国許第2106211号）。

本稿の投稿にあたり、また、環境省中部地方環境事務所白山自然保護官事務所の迫裕樹氏には、白山国立公園特別保護地区における動物の捕獲・殺傷許可申請の際にお世話になった。また、福井市の下野谷豊一氏には文献をお貸しいただいた。福井県自然保護センターの大宮正太郎氏には、本稿の投稿にあたり、様々な便宜を図っていただいた。以上の方々に心よりお礼申し上げる。

引用文献

- 荒谷邦雄. 2015. オオチャイロハナムグリ. 京都府自然環境保全課(編)京都府レッドデータブック 2015 第1巻 野生動物編. 京都府自然環境保全課, 京都. P366.
- 福井県安全環境部自然環境課(編). 2016. 改訂版 福井県の絶滅のおそれのある野生動植物 2016. 福井県安全環境部自然環境課, 福井.
- 井村正行. 2020. オオチャイロハナムグリ. 石川県生活環境部自然環境課(編)いしかわレッドデータブック 2020. 石川県生活環境部自然環境課, 金沢. P194.
- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室(編). 2020. 環境省レッドリスト 2020. <<https://www.env.go.jp/press/files/jp/114457.pdf>> 4-XII-2021 閲覧.
- 川井信矢. 2015. オオチャイロハナムグリ. 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室(編)レッドデータブック 2014 ー日本の絶滅のおそれのある野生生物 5 昆虫類一. ぎょうせい, 東京. P404.
- 斎藤昌弘. 1999. オオチャイロハナムグリ *Osmoderma opicum* Lewis. 福井県自然環境保全調査研究会(編) 福井県のすぐれた自然 動物編. 福井県県民生活部自然保護課, 福井. P291.
- 酒井 香. 2012. トラハナムグリ亜科 TRICHINAE. 岡島秀治・荒谷邦雄(監修) 日本産コガネムシ上科標準図鑑. 学研教育出版, 東京. pp320-323.
- 酒井 香・藤井昌介. 2007. 日本産コガネムシ上科図説 第2巻 食葉群 I. 昆虫文献六本脚, 東京.
- 佐々治寛之・斎藤昌弘. 1985. 甲虫目 COLEOPTERA. 福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会(編)福井県昆虫目録. 福井県, 福井. pp79-245.
- 佐々治寛之・井上重紀・酒井哲弥・斎藤昌弘・陶山治宏. 1998. コウチュウ目 COLEOPTERA. 福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会(編)福井県昆虫目録(第2版). 福井県県民生活部自然環境課, 福井. pp99-311.
- 瀬口翔太・澤島拓夫. 2016. 春日山常緑広葉樹林内におけるオオチャイロハナムグリの記録. 近畿大学農学部紀要, (49): 61-65.
- 下野谷豊一. 1989. 水銀燈に飛来したオオチャイロハナムグリ. だんだら, (3): P20.
- 富山県生活環境文化部自然保護課(編). 2012. 富山県の絶滅のおそれのある野生生物 ーレッドデータブックとやま 2012ー. 富山県生活環境文化部自然保護課, 富山.